

肉用鶏にみられたケラチノイド層の化膿性炎症を伴う筋胃びらん 3 例

徳島県徳島家畜保健衛生所 ○山本<sup>やまもと</sup> 由美子<sup>ゆみこ</sup>

#### 【はじめに】

肉用鶏の筋胃びらんは、その原因の大部分が鶏アデノウイルス感染によるものか、現在では減少しているが魚粉飼料に起因するものである。今回、県内の 3 農場において、ケラチノイド層の化膿性炎症を伴う筋胃びらんに遭遇したのでその概要を報告する。

#### 【発生概要】

- ・ A 農場：11,000 羽飼養鶏舎で 13 日齢に 60 羽/day (0.5%) 死亡。
- ・ B 農場：10,000 羽飼養鶏舎で 26～28 日齢に 26～166 羽/day (0.2～1.6%) 死亡。
- ・ C 農場：7,000 羽飼養鶏舎で 28～30 日齢に 8～12 羽/day (0.1%) 死亡。

#### 【材料及び方法】

A 農場では死亡鶏 10 羽、B 農場では生鶏 5 羽と死亡鶏 1 羽、C 農場では生鶏 4 羽と死亡鶏 4 羽について解剖。A、B、C 農場共に、細菌検査、病理組織検査、PCR 検査（アデノウイルス）、抗原検査（インフルエンザ）、抗体検査（ND、IB、IBD、*Salmonella schwarzengrund* (S.s)、MG、MS）を行った。

#### 【成績】

筋胃に出血、びらん、膿様物等がみられた個体は A 農場 4/10 羽、B 農場 4/6 羽、C 農場 3/8 羽。主要臓器の細菌検査では、A、B、C 農場で大腸菌、B、C 農場でクロストリジウム属菌および S.s が分離された。さらに筋胃病変部の細菌培養検査を A、C 農場の材料で行ったところ、*Clostridium perfringens* (C.p) が分離された。組織検査ではケラチノイド層に細菌塊を伴った化膿性炎症がみられた。アデノウイルス PCR 検査およびインフルエンザ抗原検査は陰性であった。

#### 【考察】

今回の筋胃びらんは、全農場アデノウイルス PCR 陰性であり、組織検査においても特徴的な病変はみられず、封入体形成も認められなかったことから、アデノウイルス感染による筋胃びらんは否定された。細菌培養検査からは、C.p の感染が直接的原因と考えられるが、感染要因あるいは発症要因として IBD 感染などによる免疫低下が関与しているのか、2 農場で分離された S.s が関与しているのかなど、不明な点が多かった。今後は症例数の蓄積により、化膿性筋胃炎の発症機序について明らかにしていきたい。